

—Machidukuri Round Table—



令和元年8月31日@市民学習センター

まちづくりラウンドテーブル

ワークショップ詳細

参加者：中部（益田・豊川・真砂・東仙道・都茂・二川・道川）

34名

平成28年度より開始された市民と行政の“対話の場”、“学びの場”である

「まちづくりラウンドテーブル」（通称[MRT]）。

今年度第1回目は「協働のまちづくりについて考えよう」を実施し、地域自治組織、NPO法人からも出席いただき、協働について議論しました。

令和元年10月 益田市協働推進ネットワーク庁内会議

1. 挨拶

2. 協働を考えるために

ワークショップの前に市人口拡大課より、協働について説明いたしました。



3. 自己紹介



4. ワーク①：安心して暮らすために必要なアクションを共有しよう

安心して暮らすために必要なことで、どんなことを取り組んでいるかなど付箋に書き出し共有しました。



5. ワーク②：活動していること、これからできそうなことを考えよう！



6. ワーク③地域で誰と誰が協働したらよいかを考えよう！



7. 情報共有

「私たちだったらこうするプラン」を作成し、全体に共有しました。



8. 閉会

Aグループ：

ワーク①：安心して暮らすために必要なことを考えよう

サロンの立ち	児童生徒の見守り	食場や学校以外での同世代のつながりづくり	災害から身を守る仕組みづくり
交通弱者への対応	道のほとりの木を切る	地産地消の推進	避難所の看板設置
食育活動の活性化	買い物・通院の支援	交通安全教室の開催	水路の点検
有害鳥獣対策	地域内での冠婚葬祭のルールづくり	寺子屋での子どもへの関わり	草刈の担い手の育成

ワーク②：アクションに関連する団体を考えよう

テーマ	高齢者の暮らしを支えるために
関連団体	ハード・ソフト・ハートの三次元構想を実現するための関係団体 地域自治組織、自治会、自主防災組織、婦人会 地域商店、道の駅、生協、バス・タクシー会社 民生委員、認知症サポーター、生活支援団体、スポーツ・趣味の団体 公民館、行政、中間支援組織 など

ワーク③：私たちだったらこうするプラン

アクション：高齢者が最期まで住み続けられる地域づくり

誰が（誰と誰が）

何をするか？・・仕組み・対策案

買い物支援団体（商店、道の駅、生協など）
高齢者支援団体（民生委員、認知症サポーター、生活支援団体）
交通支援団体

各支援団体が、ハード・ソフト・ハートの3次元構想で高齢者に優しい暮らし支援の仕組みづくりを行う。



令和元年度まちづくりラウンドテーブル

～“協働”を考えよう～

グループワークのまとめ

Bグループ：

ワーク①：安心して暮らすために必要なことを考えよう

空き家の把握	空き家情報を知る	避難所の確認	避難経路の確認
公共交通の充実	買い物支援	ゆずり合い号の運行	買い物随时できる交通体制の確保
草刈り 草刈りの支援	有害鳥獣の駆除	認知症予防カフェの運営	子どもたちの居場所づくり
高齢者の居場所づくり	中高年のボランティア活動の充実	地域行事への参加	

ワーク②：アクションに関連する団体を考えよう

テーマ	買い物弱者対策
関連団体	地域自治組織、公民館、行政 診療所、学校（中高年のボランティア）、民生委員 バス・タクシー会社等の交通事業者 民間企業（ケーブルテレビ、生協、社会福祉法人、スーパー） など

ワーク③：私たちだったらこうするプラン

アクション：買い物支援 Local Amazon System

誰が（誰と誰が）

何をするか？・・仕組み・対策案

公民館

行政
健康づくりの会

民間企業
中高生のボランティア
民生委員

公民館を集いの場とし、高齢者への買い物支援を行う。
注文の方法は高齢者がケーブルテレビで注文し、商品が公民館に届くシステム。



Cグループ：

ワーク①：安心して暮らすために必要なことを考えよう

独居者の安否確認システム	公民館と学校との連携	近所の見守り	いつでも誰でも集まって話せる居場所づくり
避難経路の確認	夏場の草刈り、冬場の除雪の協力	受診のための交通手段の整備	
買い物のための交通手段の整備	交通安全のマナー講習会	田んぼの担い手確保	非常時の対策を普段から訓練する
食べ物の流通	近所の方を知る	外との関わりを持つ	働く

ワーク②：アクションに関連する団体を考えよう

テーマ	ご近所付き合い
関連団体	地域自治組織、自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ、自主防災団体、個人 見守り隊、民生委員 行政

ワーク③：私たちだったらこうするプラン

アクション：ご近所とのつながりづくり

誰が（誰と誰が）	何をするか？・・仕組み・対策案
婦人会 子ども会 見守り隊 行政 自主防災組織 新聞・郵便事業者	婦人会：バスツアー、訪問、配りもの 子ども会：高齢者訪問、ラジオ体操 見守り隊：子どもの通学路の見守り 自主防災組織：ハザードマップ活用、防災端末の電池交換等 行政：転居時の地域情報提供、不動産屋との連携 新聞・郵便事業者：気配り、声かけ



Dグループ：

ワーク①：安心して暮らすために必要なことを考えよう

防災対策	高齢者の一人暮らしへの声かけ	独居の人の非常時の連絡先	災害時の連絡
イノシシ対策	溝掃除、草刈り	健康づくり	いつでも外出できる交通手段
情報交換の機会を設ける	学童保育の拡充	子どもの遊びの場	地域での避難訓練
地域活動に対する担い手の増加	自治会・組単位での近所付き合い	学生の登下校の見守り活動	

ワーク②：アクションに関連する団体を考えよう

テーマ	子どもの見守り
関連団体	学校、PTA 行政、自治会、教育委員会 地域住民 警察 企業

ワーク③：私たちだったらこうするプラン

アクション	登下校の見守り
誰が（誰と誰が）	何をするか？・・仕組み・対策案
警察 行政 学校 地域 保護者 子ども 企業	警察：備品の提供、安心感 行政：情報収集・発信、担い手後押しをする 学校：子どものあいさつ指導、情報提供をする 地域：地域住民への周知、散歩時間を合わせる 保護者：地域活動への参加をする 子ども：しっかりあいさつ、モチベーションアップ 企業：企業PRをこめて声かけをする



Eグループ：

ワーク①：安心して暮らすために必要なことを考えよう

高齢者の様子が分かるシステムづくり	子どもの居場所づくり	地域活動への出席者の固定化
UIターンの呼び込み	防災マップの作成	公民館での飲み会
子どもたちの登下校時の見守り	小学校の利活用と運営	有害鳥獣対策電気柵の設置
草刈り 地域の人と子どもたち		
後継者の育成	ご近所付き合い	交通手段の確保 運行時間の見直し
		日常的なイベント 学校や園の開放

ワーク②：アクションに関連する団体を考えよう

テーマ	にぎわいづくり
関連団体	地域自治組織、公民館、行政 地域ボランティア、学校、NPO バス・タクシー会社等の交通事業者 学校、民間企業 など

ワーク③：私たちだったらこうするプラン

アクション：地域の活性・にぎわいづくり

誰が（誰と誰が）

何をするか？・・仕組み・対策案

地域自治組織

子ども会

神楽社中

行政

交通事業者

廃校を活用し、地域自治組織、学校、子ども会、神楽社中が連携し、イベントの実施や文化の伝承（神楽や劇など）を図る。参加者が参加しやすいよう行政・交通事業者が連携し、移動の支援を行う。

